

単元名 古代までの日本と世界

配当時間 18時間

- 単元の目標 (1) 古代までの日本の大きな流れについて、世界の歴史を背景に、時代の特徴を踏まえて理解するとともに、諸資料から歴史に関する様々な情報を効果的に調べまとめる技能を身に付けることができる。
- (2) 古代までの日本に関わる事象の意味や意義、伝統と文化の特徴などについて、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現在とのつながりなどに着目して多面的・多角的に考察したり、思考したことを説明したり、それらを基に議論したりする力を身に付けることができる。
- (3) 古代までの日本に関わる諸事情について、そこでみられる課題を主体的に追究しようとする。

標準的な展開例

10220106_001

学 習 活 動	留 意 事 項 な ど
<p>1 人類の誕生から古代までの日本と世界の動きを大観し、単元の学習問題をつかみ、学習計画を立てる。</p> <p>○ 類人猿と猿人の違いについて話し合う。</p> <p>★ 日本人はいつ、どこから来たのだろうか。</p> <p>○ 人類がどのように広がっていったかを調べる。</p> <p>・ アフリカの猿人から、少しずつ人類が広がり、日本には新人が移動してきている。</p> <p>○ 単元の学習問題をつかみ、学習計画を立てる。</p> <p>● 「古代」の日本は、国のしくみをどのように整えていったのだろうか。</p> <p>2 人類の誕生から農耕・牧畜までを調べる。</p> <p>★ 人類は、どのように進化し、どのような生活をしていただろう。</p> <p>○ 人類の祖先について調べる。</p> <p>・ 猿人、原人、旧人、新人</p> <p>・ 直立二足歩行</p> <p>・ 旧石器時代</p> <p>○ 農耕と牧畜による人々の生活の変化について話し合い、分かったことをまとめる。</p> <p>・ 気候の温暖化によって、農耕・牧畜を行うことが可能になり、人々がムラをつくって同じ場所で暮らすようになった。</p> <p>○ 小単元の学習問題をつかみ、学習計画を立てる。</p> <p>■ 世界の古代文明にはどのような特徴があるのだろうか。</p> <p>3 古代文明の誕生について調べる。</p> <p>★ 古代文明はどのような地域におこり、どのような特徴をもっていたのだろうか。</p> <p>○ 古代文明がおこった場所について調べる。</p> <p>・ メソポタミア文明 ・ エジプト文明</p> <p>・ インダス文明 ・ 中国文明</p> <p>○ メソポタミア文明、エジプト文明、インダス文明の特徴を比較し、共通点と相違点を調べる。</p> <p>・ 巨大な建築物がつけられたことや支配者がいたことなどが三つの文明に共通してる。</p> <p>4 中国の文明と朝鮮半島の国々について調べる。</p> <p>★ 中国には、どのような文明がおこり、どのように発展したのだろうか。</p> <p>○ 中国の文明について調べる。</p> <p>○ 古代中国を統一した秦と漢について、時代の特徴やどのように発展したかを調べる。</p> <p>○ 朝鮮半島の国々について調べる。</p> <p>5 ギリシャ・ローマの文明について調べる。</p> <p>★ ギリシャ・ローマ文明はどのようにおこり、どのように発展したのだろうか。</p> <p>○ ギリシャの文明について調べる。</p> <p>○ ローマの文明について調べる。</p>	<p>・ 教P. 14～P. 17</p> <p>・ 教P. 14～P. 15の資料を用い、サルとヒトの違いを捉えさせる。</p> <p>・ 教P. 16～P. 17の資料を用い、人類がアフリカ東部から広がっていったことを理解させる。また、年表では古代までの日本と世界の動きを時系列で捉えさせる。</p> <p>【評】 人類の広がりについて、資料を基に考えたり、自分の考えをまとめたりする活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p> <p>・ 教P. 18～P. 19</p> <p>・ 旧石器時代から新石器時代にかけて起こった変化に着目して追究させる。(推移)</p> <p>・ 人類が猿人、原人、旧人、新人へと進化してきた過程をつかみ、それぞれの段階の特徴をつかませる。</p> <p>・ 気候の温暖化により、人々の生活に大きな変化が生じたことを捉えさせる。</p> <p>【評】 人類のくらしが採集・狩猟生活から農耕・牧畜生活へと変化したことを気候と関連付けて考えたり、表現したりする活動を通して「思考・判断・表現」を評価する。</p> <p>・ 古代文明の概略を知らせる。</p> <p>・ 教P. 20～P. 21</p> <p>・ メソポタミア文明、エジプト文明、インダス文明がおこった場所や環境に着目して追究させる。(比較)</p> <p>・ 教P. 20の資料を用い、古代文明が農耕・牧畜が発展しやすい大河の流域でおこったことに気付かせる。</p> <p>・ 古代文明の特徴について、文字や建築物などに注目して比較させる。</p> <p>【評】 古代文明の特徴について、共通点と相違点を調べまとめる活動を通して、「知識・技能」を評価する。</p> <p>・ 教P. 22～P. 23</p> <p>・ 国家が領土や支配地を治めるために行ったしくみの変化に着目して追究させる。(推移)</p> <p>・ 中国文明でも、文字や建造物などが発達したことに気付かせる。</p> <p>・ 万里の長城が国を守るために築かれたことやシルクロードが開かれたことにより各地の文化が周辺の国々へ影響を与えたことを捉えさせる。</p> <p>・ 教P. 24～P. 25</p> <p>・ 政治制度の特徴に着目して追究させる。(推移)</p> <p>・ アテネで民主政治が行われ、社会が安定し、演劇や哲学などの文化が発展したことを捉えさせる。</p> <p>・ 都市国家であったローマが、共和政から帝政へと変わり、大帝国に発展していったことを</p>

6 古代の三大宗教のおこりと広がりについて調べる。

★古代では、どのような宗教がおこり、人々に受け入れられていったのだろう。

- 世界の三大宗教のおこりと広がりについて理解する。
 - ・古代文明がおこった辺りで、宗教もおこっている。

- 宗教が広まった理由について話し合う。
- 学習を振り返り、小単元の学習のまとめをする。

7 日本列島に人類が住み始めた頃のくらしの様子について調べる。

★日本列島に住んだ私たちの先祖は、どこから来て、どのような生活をしていたのだろう。

- 旧石器時代の人々のくらしについて調べる。

- 縄文時代の人々のくらしについて調べる。

- 旧石器時代と縄文時代の人々のくらしを比べ、どのように向上したかを調べる。

- 小単元の学習問題をつかみ、学習計画を立てる。

■縄文時代の後、日本列島において、国家はどのように形成されていったのだろう。

8 稲作の広まりと弥生時代について調べる。

★稲作が始まって、人々のくらしはどのように変わっていったのだろう。

- 稲作の広まりについて調べる。
- 弥生時代について調べる。

- 縄文時代と弥生時代を比較し、くらしや社会の在り方の変化について話し合う。
 - ・稲作が広まり、人口が増えると、土地や水を巡って争いが起きるようになった。

9 ヤマト王権と渡来人について調べる。

★東アジアとの交流の中で、ヤマト王権は、どのようにして日本を統一していったのだろう。

- 古墳について調べる。

- ヤマト王権と渡来人について調べる。

10 「よろいを着た人物のなぞ」について調べる。

★考古学に挑戦！よろいを着た人物のなぞを解こう。

- よろいを着た人物の立場について調べる。

- 近くから発見された女性1体と子ども2体の骨について調べる。

- 火山灰の面から発見された足跡について調べる。

- よろいを着た人物のなぞについて、自分の考えをまとめたり、話し合ったりする。

11 東アジアの統一国家について調べる。

★隋や唐は、周辺の国の政治や文化にどのような影響を与えたのだろう。

- 隋・唐について調べる。
 - ・唐は律令に基づく政治を行い、皇帝を中心とする中央集権国家をつくりあげた。

押さえる。

・教P. 26～P. 27

・宗教がおこった地域や広がりについては、事実を扱うこととする。教義については深入りしない。

・仏教、キリスト教、イスラム教がおこった地域や広まる過程に着目して追究させる。（推移）

・教P. 20と教P. 27の地図を比較し、古代文明と主な宗教がおこった場所が共通していることに気付かせる。

【評】三大宗教のおこりと広がりについて調べまとめる活動を通して、「知識・技能」を評価する。

・教P. 28～P. 29

・当時の環境と人々の生活の特徴に着目して追究させる。（つながり）

・教P. 28の地図を用い、日本と大陸がつながっていたことを押さえる。

・教P. 29の資料を用い、縄文時代の人々がくらしの中で何をしているのかを読み取らせる。

・竪穴住居や土器などが生活の向上につながっていることを捉えさせる。

・弥生時代の概略を知らせる。

・教P. 30～P. 31

・稲作の広まりと生産技術の発展に着目して追究させる。（つながり）

・教P. 30の資料を用いて調べさせる。

・「ムラ」から「クニ」への変化と邪馬台国について押さえる。

【評】稲作の普及や生産技術の発展がもたらした人々のくらしや社会の変化について考えたり、自分の考えをまとめたりする活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。

・教P. 32～P. 33

・古墳の大きさや分布、渡来人の果たした役割に注目して追究させる。（つながり）

・塚や墓、円墳、方墳、前方後円墳という墓の種類にも触れる。前方後円墳は非常に珍しい形であることを押さえ、なぜそれが大和地方に多いのかについて考えさせる。

・ヤマト王権が畿内を中心とした勢力であったと考えられていることを押さえる。

・渡来人が伝えたものを知らせ、その業績により日本の文化や技術が大きく発展したことを捉えさせる。

・教P. 34～P. 36

・教P. 35の資料1～4を用い、金井東裏遺跡の位置や発掘状況などから、よろいを着た人物の立場について考えさせる。

・教P. 35の資料5を用い、人物の特徴や発掘されたときの状況などから、よろいを着た人物との関係を考えさせる。

・教P. 36の資料6を用い、足跡の形や向きから当時の人々の行動を捉えさせる。

・教P. 36の「『よろいを着た人物』とは」に、どのような人物で、何をしていたかについて自分の考えを記述させる。また、「私が考えた新聞の見出し」についても記入させ、意見を出し合わせる。

・教P. 38～P. 39

・国土の広がりや政治制度、文化の面など、その頃の日本との違いに着目して追究させる。（比較）

・教P. 38の年表を用い、いつ頃存在した国かを確認させる。また、唐が律令を制定し、世界有数の国であったことを押さえる。

【評】隋や唐の国のしくみについて、日本との違いを踏まえ、調べまとめる活動を通して、

- 国際都市長安について調べる。
 - 朝鮮半島の国について調べる。
- 12 聖徳太子と飛鳥時代について調べる。
- ★蘇我氏や聖徳太子が定めた制度や進めた事業には、どのような共通するねらいがあるのだろう。
- 蘇我氏や聖徳太子の業績について調べる。
 - なぜ、遣隋使を派遣したのかを考える。
 - 飛鳥文化について調べる。
- 13 大化の改新と律令国家の成立について調べる。
- ★大化の改新で進められた政治は、どのように受けつがれていったのだろう。
- 大化の改新について調べる。
 - ・乙巳の変
 - ・蘇我氏の滅亡
 - ・公地公民
 - 律令国家の成立の流れについて調べる。
 - ・持統天皇は天武天皇の事業を引き継ぎ、藤原京や大宝律令を完成させた。
 - 学習を振り返り、小単元の学習のまとめをする。
- 14 律令国家のしくみとその下での人々の暮らしについて調べる。
- ★律令国家には、どのような特徴があるのだろう。
- 平城京と律令国家のしくみについて調べる。
 - ・二官八省
 - ・国郡里
 - ・太宰府
 - ・朝廷
 - 律令国家の下での人々の暮らしについて調べる。
 - ・口分田
 - ・班田収受
 - ・墾田永年私財法
 - 小単元の学習問題をつかみ、学習の計画を立てる。
- 律令国家のあり方は、どのように変化していったのだろう。
- 15 天平文化と聖武天皇について調べる。
- 東大寺の正倉院に納められているものを調べる。
 - ★奈良時代には、どのような文化が生まれたのだろう。
 - 天平文化について調べる。
 - ・仏教によって国を護り、安定を図ろうとしたため、仏教を中心とした文化が栄えた。
 - 万葉集と歴史書について調べる。
- 16 平安京と新しい仏教について調べる。
- ★なぜ、都が平安京に移されたのだろう。
- 平安京について調べる。
 - 桓武天皇が目指した政治について調べる。
 - 遷都の理由について話し合う。
 - 平安時代の仏教の特徴を調べる。
- 17 摂関政治と国風文化について調べる。
- ★貴族の政治は、どのような社会や文化を生み出したのだ

- 「知識・技能」を評価する。
- ・中国が南北朝に分かれていた頃、朝鮮半島では、6世紀に新羅と百済の勢力が増し、やがて、新羅が朝鮮半島を統一したことを押さえる。
 - ・教P. 40～P. 41
 - ・どのような国づくりのための制度や、事業だったのかに着目して追究させる。(比較)
 - ・教P. 41の系図を用い、聖徳太子と蘇我氏や推古天皇の関係を読み取らせる。
 - ・教P. 40の「遣隋使の手紙と皇帝」の資料を用い、当時の日本と隋の国のしくみの違いから考えさせる。
 - ・蘇我氏や聖徳太子は、なぜ熱心に仏教を信じて、次々に寺院を建てたのかを考えさせる。
 - ・教P. 42～P. 43
 - ・中国や朝鮮の動きと関わりに着目して追究させる。(つながり)
 - ・教P. 43の資料「主な都の移り変わり」を用いそれぞれの都の位置を捉えさせる。
 - ・天智、天武、持統天皇が行った政治についてまとめる。
 - 【評】大化の改新から天武天皇、持統天皇へと引き継がれて律令国家が確立されたことを調べまとめる活動を通して、「知識・理解」を評価する。
 - ・教P. 44～P. 47
 - ・大化の改新以前の日本国内の様子や中国の律令制度との関係に着目して追究させる。(推移)
 - ・教P. 44～P. 45の資料を用い、都の様子や政治のしくみなどを取り上げ、その特徴を捉えさせる。
 - ・教P. 46～P. 47の資料を用い、税や兵役・労役の視点から当時の人々の暮らしの様子を捉えさせる。
 - ・教P. 47の「木簡」について、知多半島からも調が平城京に送られており、その際に荷札として使われた木簡が発見されていることに触れる。
 - ・教P. 48～P. 50
 - ・外国の宝物が納められていることに気付かせる。(つながり)
 - ・唐の広がりによる東西交流の隆盛ぶりや遣唐使が果たした役割に着目して追究させる。
 - ・教P. 49の資料を用い、仏教を軸に天平文化の特徴を押さえる。
 - 【評】天平文化が仏教を中心としたもので、国際色豊かな文化であることを調べまとめる活動を通して、「知識・技能」を評価する。
 - ・日本書紀は、朝廷が中国の歴史書の体裁にならってまとめられたものであることを押さえる。
 - ・教P. 52～P. 53
 - ・朝廷内の貴族や僧侶の動きと、天皇が目指した政治の在り方に着目して追究させる。(つながり)
 - ・教P. 44～P. 47を用い、平城京の都の様子や進められた政治などについて、平安京と比較してまとめさせる。
 - ・桓武天皇の律令に基づく政治が変化した背景を捉えさせ、政策の特徴をつかませる。
 - ・平安時代の仏教は、都から離れ、厳しい修行や学問を行うものであったこと、また浄土信仰が盛んになったことを理解させる。
 - ・教P. 54～P. 57
 - ・律令国家の政治の移り変わり、東アジアの状

<p>ろう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 摂関政治と地方の政治について調べる。 <ul style="list-style-type: none"> ○ 国風文化が発展した理由を考えたり，説明したりする。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 遣唐使の派遣が停止されたことから，唐の影響力が弱まり，日本のくらしや風土に合った文化が生まれた。 <ul style="list-style-type: none"> ○ 学習を振り返り，小単元の学習のまとめをする。 18 <ul style="list-style-type: none"> ○ 学習を振り返り，単元の学習のまとめをする。 ★ 単元の学習問題について，自分の考えをまとめよう。 ○ 学習してきたことを年表と地図にまとめる。 <ul style="list-style-type: none"> ○ 学習問題について話し合ったり，自分の考えをまとめたりする。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 奈良時代には，平城京を都として，中央集権国家のしくみが整えられた。 ○ 中世の日本と世界の様子に触れ，次の単元の見通しをもつ。 	<p>況の変化に着目して追究させる。（推移）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 教P. 54の資料を用い，藤原氏がどのように力を伸ばしたかを理解させる。 ・ 戸籍が作られなくなったり，班田収受が行われなくなったりするなど，律令政治が変化したことを押さえる。 ・ 教P. 55の資料を用い，国風文化の特徴を捉えさせる。 <p>【評】国風文化が発展した理由について，貴族中心の政治や東アジアの変化から考えたり，説明したりする活動を通して，「思考・判断・表現」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 教P. 62～P. 63 ・ 教P. 62の年表を用い，日本と世界の動きを捉えさせる。また，政治の中心になった人々や地域の共通点や相違点を考えさせる。 ・ 地図では，日本の政治の中心地の移り変わりを確認したり，古代のつながりの深い国との関係を考えさせたりする。 <p>【評】これまでの学習活動を踏まえ，古代までの特色について話し合ったり，自分の考えをまとめたりする活動を通して，「主体的に学習に取り組む姿勢」を評価する。</p>
--	---

【 備 考 】